

「もっと居心地の良い地域にしたい」 まちづくりインタビュー

町には、少子高齢化や人口減少が進む地域社会の中でも、たくさんの課題を乗り越えながら、地域の未来をみんなですくすくといこうと、自ら率先してまちづくり活動に取り組んでいる人々がいます。

『紫波ネット』は、地域の未来を考え活動する町民の皆さんの取り組みを「まちづくりインタビュー」の中で紹介し、その活動を応援していきます。

赤沢地区では「もっと居心地の良い地域にしたい」、「子育てしやすい地域にしたい」と考える人々が、動き出そうとしています。

赤沢地区はココ!!



赤沢地区の取り組み

赤沢地区では、「赤沢まるごと博物館プロジェクト」として、平成24年7月から地域の未来を考える話し合い(地区創造会議)が始まりました。

平成25年11月には赤沢公民館で「赤沢まるごとまつり」、平成26年7月には、通称「あじさいロード」のある牛ヶ馬場地区を会場に「赤沢まるごとまつりあじさいまつり」が開かれました。町内外から900人以上が訪れ、大盛況。同年10月には、赤沢の案内パンフレット「赤沢まるごとガイド」が完成し、赤沢地区のお宝を地区内外へ情報発信しています。

最近では、先住民族である縄文人の住居跡と考えられている洞窟や平泉と関わりが深いとされている寺社などに注目した地域活動が行われています。

今回は赤沢地区でブドウ農家を営む吉田貴浩さんから、地域に対する思いや今後取り組みたいことについてインタビューしました。



プロフィール

吉田貴浩さん Yoshida Takahiro

紫波町赤沢地区出身、38歳。岩手県青年農業士、東葡萄俵倶楽部会長、防除システム岩手中央副組合長。松原農園経営。農業改良普及員になることを目指して農業大学校で学んだ後、農協で営農指導員としての実務を経験。縁あって紫波フルーツパーク(平成15年4月設立)の立ち上げに関わり、32歳で就農。ブドウ農家の2代目。平成24年から地区創造会議に参加。

インタビュー

▼吉田さんにとって赤沢地区は、どのようなところですか。

赤沢出身で、現在も赤沢に住んでいます。「ふるさと」として見てくるとか、課題はあるかとか、地域への問題意識から地域づくりを考えたことはありません。

私が今、考えているのは「赤沢地区を居場所として捉えたときに、どうしたら生活しやすいか」ということ。「住んでいるからには、居心地の良い場所をつくらなくちゃ」と考えています。

▼居心地の良い地域にしたいと考えるようになったのはなぜですか。

私には、小学校3年生と5歳の子どもがいます。子どもたちを育てる中で、同世代の子育て世代と付き合うようになりました。その中で、農業や子育て、地域そして家族のことなどが話題になります。昔できていたことが、今なげできないのかなと思うようなこともありました。

例えば、かつて赤沢児童館では「夕涼み会」という行事が行われていました。7月の暑い日の夕方、児童館に通う子どもを持つお父さんたちが集まり、楽しそうに語り合いながら笑っていました。私たちが子ども巻き込んで、家族みんなが集まり、まるでお祭りのようだったことを覚えています。

「今はなぜあのようなことができないのだろうか。自分たちの父親世代が子育てを楽しんでいたように、自分たちも楽しく子育てをしたい」

地域の児童館に関わる親たちが、「もっと居心地の良い地域にしたい」、「子育てしやすい地域にしたい」と考えるようになっていきました。

▼地域をどのように見たらいいのでしょうか。

難しく考えてはいけません。児童館に集まる保護者から、児童館のことや地域のことを相談されることがあります

が、特にもお嫁さんたちは地区外から来ているので、外の視点を持っていきます。私たちには見えていない地域の課題に気付かされることが多いのです。

地域をどのように見たらいいかと堅苦しく考えるのではなく、**外の視点を持つお嫁さんたちの意見を実現できる場をつくる、そのような地域にするには、何をすればいいかを考えています。**

▼現在の活動や今後やってみたいことを教えてください。

現在、個人として民間企業の支援を受けながら農業者と事業者をつなぐ仕組みづくりなどに取り組んでいます。今後は赤沢地区をフィールドとして、大きく2つの視点を持った構想を実現できればと考えています。

一つは、人の集まる場の確保です。赤沢公民館や郵便局、児童館の周辺を私たちは通称「赤沢銀座」と呼んでおり、昔から人が集まった場所として知られています。いろいろな可能性を秘めた地域であり、その機能をなくしたくはありません。この地区を地域づくりに生かしたいと考えています。

もう一つは、果樹の集落営農を地域の中で取り組みたいと考えています。お米に関する政策は多くあります。



吉田さんは県内の大学が学生の地元定着を目指して行う取り組みにも協力しています
(写真は大学生たちが赤沢地区を訪問したときの様子)

しかし、果樹園はあまり取り上げられることがありません。少子高齢化により、稼げない、跡継ぎがない、そのためにも営農継続できない、そんな農家の畑を預かり、使わせていただく。果樹園の集積によって、新たな雇用の開拓につなげたい。そんなことを考えています。

営農をしながら、地域コミュニティの

活性化も実践したいと考えています。

例えば、赤沢児童館に保育の機能に加えて、付加価値を加えた地域の交流の場をつくらうという発想があります。喫茶室のある保育サロンのような。まだ何も決まったことではなくて、そんなこともできるよね、そんなアイデアも面白いよねという事です。

このような考えに至ったのは、地区創造会議に参加して気付いたことでもありますし、オガール地区が整備されて、町外からいらした方々の話を聞く機会ができたことも大きいと思います。

「いろんなアイデアが生まれ、バラバラだった活動が、やがて一つの事業に集約されて、自然に居心地の良い地域がつくられていく」

「一つひとつの小さな取り組みが、それぞれ地域に面白い波紋を描きながら、やがて壮大で美しい模様になるような、あらかじめ決まったビジョンを持たない地域づくり活動があっても良いと思います」

私の地域づくりに対する姿勢としては「自分たちがこれから生活しやすくするために、できることから少しずつ始めること」を心掛けています。

受講者募集!

小規模多機能自治について学ぶ「紫波みらい塾」

少子高齢化と人口減少が進む中で、地域課題を解決する手法の一つに、住民の自主活動やまちづくり活動を促進し、地域の担い手の当事者として地域を経営する「小規模多機能自治」の取り組みが注目されています。

「紫波みらい塾」は、小規模多機能自治の取り組みを学び、自分たちの地域にあった暮らし方を見出していく講座です。地域の未来を本気で考えて実行したいという人の参加をお待ちしています。参加無料

■日時・内容(全3回)

第1回 1月16日(月) 午後6時30分～9時

「小規模多機能自治とは」

先進地の取り組みを学び、将来の地域社会を見据えて今私たちが取り組むべきことを考えます。

第2回 2月2日(木) 午後6時30分～9時

「地域の現状を『見える化』する方法」

地区単位で18歳未満同居世帯率×高齢化率の集

落散布図をつくり、現状を把握します。

第3回 2月21日(火) 午後6時30分～9時

「住民ニーズと時間の使われ方を『見える化』する方法」

“地域の行事・会議・組織”の棚卸し実践者である新潟NPO協会事務局長の石本貴之さんをお招きして、具体的な行動計画づくりのノウハウを学びます。

■会場 赤沢公民館

■定員 30人(先着順)

■申込方法 1月10日(火)までに住所・氏名・電話番号を添えて、

電話・ファクシミリまたは電子メールで申し込みください。



【申込・問合せ】

企画課 協働広報室 ☎672-2111 内線2320 [FAX]672-2311 ✉shiwa.info@gmail.com